留萌鐵道建設概要

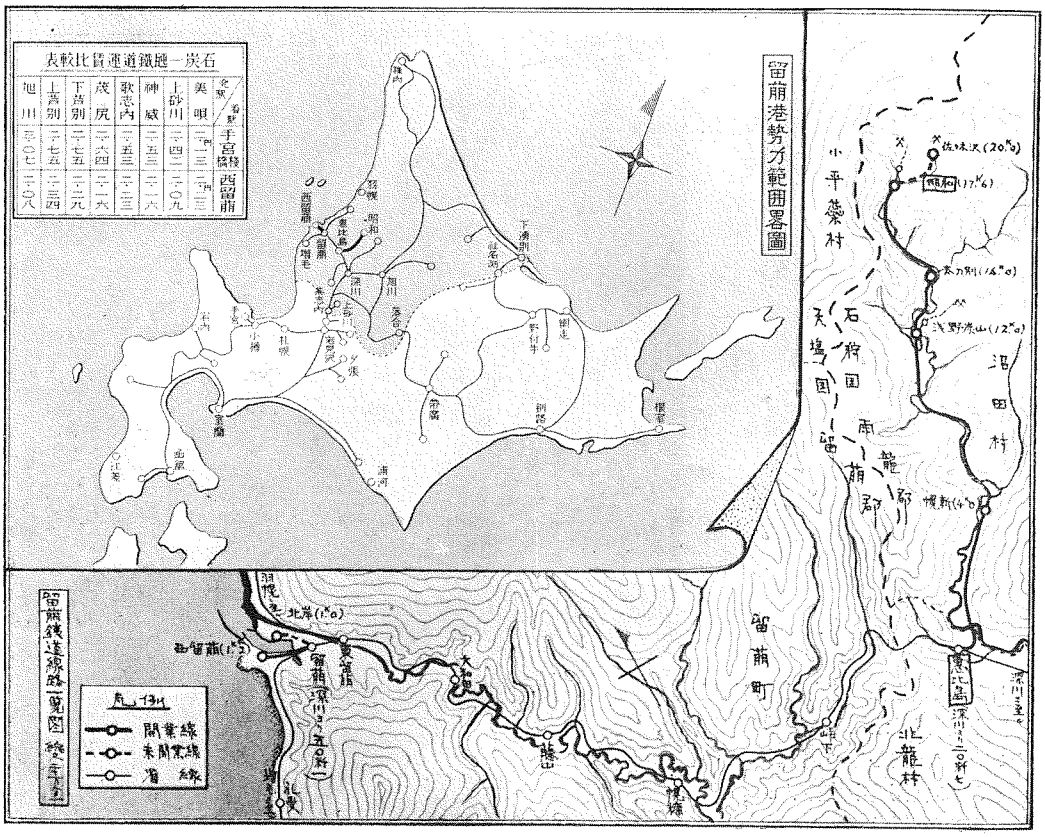
鹿島組技師長　菅野忠五郎

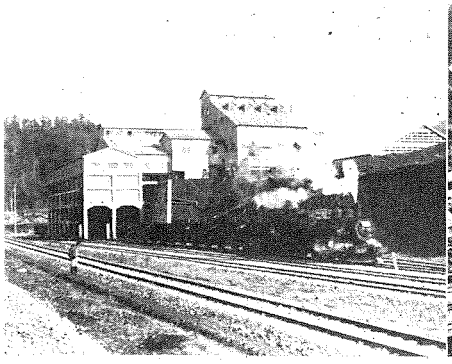
炭礦線　省線惠比島驛より分岐して雨龍炭田に至るものである。惠比島・昭和間の延長は17粁6分で、昭和五年十月開業した。昭和佐々木澤間2粁4分は未着手である。

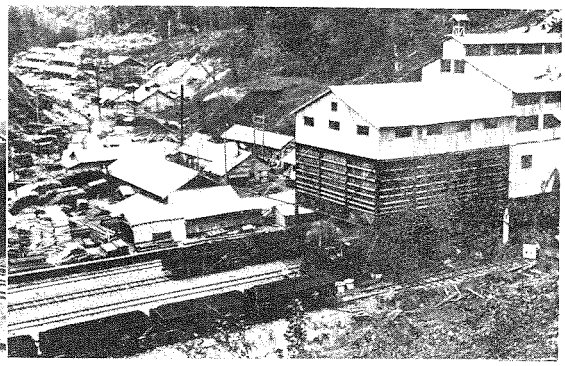
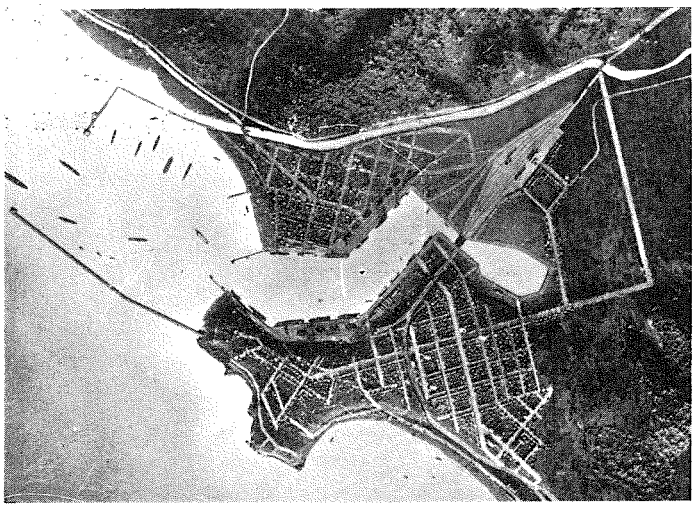
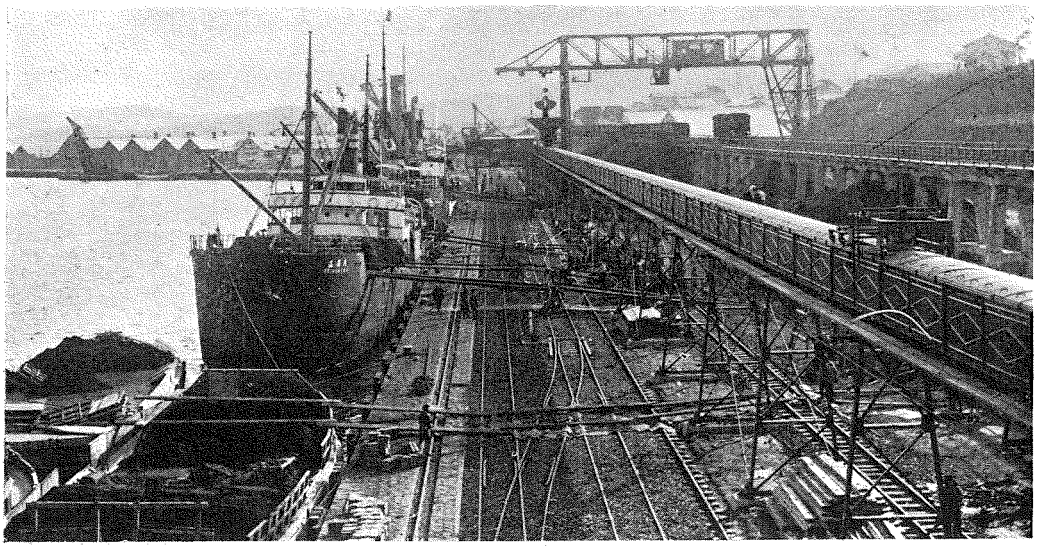
海岸線　省線留萌驛より分岐し、留萌港の南北兩岸に達するもので、南岸線の延長留萌西留萌間1粁2分、北岸線は留萌北岸間1粁である。前者は昭和五年、後者は昭和七年十二月に夫々貨物の運輸を開始した。

南岸線には、水深26呎、繫船能力6,000噸2隻の繫船岸壁（この延長162間2分）給水能力一ヶ所毎時平均65噸の上水道給水口8ヶ所、面積2,700坪の貯炭場、陸上高架棧橋延長210間、ロープトロリー式橋型運搬機（グラブ容量石炭3瓲、經間33米、高18米）一基、スチイルベルトコムベヤー（幅800粍、延長290米送炭能力毎時平均130瓲）一基、自動秤量機付石炭積込機一基、雜貨用門型動臂三瓲起重機一基等の海陸連絡荷役機械設備がある。

北岸線には水深26呎、延長248間、繫船能力6,000噸級3隻の繫船岸壁、南岸同樣の給水設備4ヶ所、10,500坪の貯炭場、陸上高架棧橋237間等の設備あり、荷役機械設備はまだ施してゐない。（以上）







寫眞說明　上の左は留萌鐵道淺野炭山驛、建物は淺野雨龍炭礦株式會社雨龍礦業所撰炭場である。右は留萌鐵道昭和驛。明治礦業株式會社昭和礦業所の撰炭場である。中央は留萌港全景下は留萌鐵道南岸線の石炭船積設備で、右端高架線、その次がステイルベルトコンベヤーである。